

市制施行90周年

昭和7年4月1日に、横浜市・横須賀市・川崎市に次いで県内4番目の市となりました。以来90年、先人たちのたゆまぬ努力によって平塚市が築き上げられてきました。90周年を記念してさまざまなイベントを開くなど、節目の1年を盛り上げていきます。

問 行政総務課 ☎21-9754

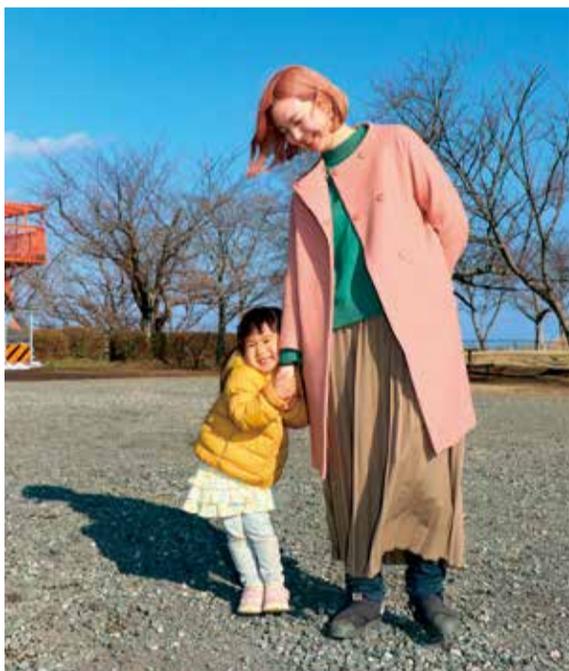


上のロゴマークは、昨年公募しました。寄せられた作品数は96点。市による1次審査の後、市内の小学校6年生による投票を経て、日景ますみさん(下記事)の作品が選ばれました。今後、市制施行90周年のPRに活用されます

キャッチフレーズ

人と自然がふれあうまち つなぐ未来へ ひらつか90

平塚の魅力が詰まったロゴ



しばしば家族でロゴマークに描かれている場所に出掛けるそうです



結婚のお祝いにイラストをプレゼントした2人には、とても喜んでもらったといいます

「広報ひらつかにロゴマーク募集の記事があって、応募してみようと思ったのがきっかけです」と話すのは、市制施行90周年ロゴマーク(上)の作者、日景ますみさん。せっかくなら楽しい雰囲気にしたと思って、イメージを膨らませました」と振り返ります。日景さんは生まれてから高校生まで平塚で過ごし、高麗山の麓に祖父母の家があり、春に一斉に咲く桜をよく覚えているといいます。その後東京へ。学生生活を経て化粧品会社に就職し、商品のパッケージデザインや容器の設計などを担当していました。出産を機に平塚へ戻り、今は子育てに奮闘する日々です。ロゴマークは、見た人の

心が温かくなるような優しい雰囲気でのデザインです。描かれているのは、平塚の象徴的な自然の風景「高麗山」「海」「川」「市民の花ナデシコ」。そしてその中央、90の中には「笑顔で向き合う2人」がいます。日景さんは「キャッチフレーズの『人と自然がふれあう』という言葉がキーポイントだと思えました。自然の真ん中に描いた2人は、祖母と私や、母と私、私と3歳の娘のように、人々がずっとつないできた絆のようなものをイメージしています。ロゴを見た方にも『自分と大切な誰か』を思い浮かべてもらえたらうれしいです」とほほ笑みます。

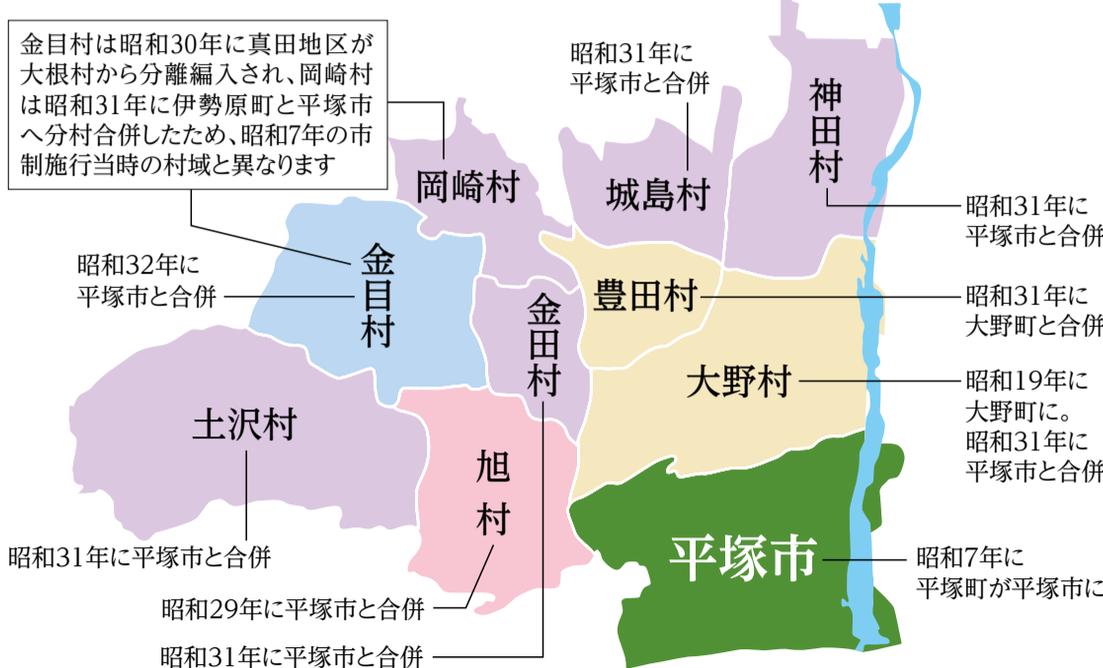
このロゴマークは日景さんにとって、イラストを使ってデザインした初めての作品。今回の応募をきっかけに、イラスト作品を少しずつ作るようになったといいます。昨年はコロナ禍で友人が結婚式を延期する中、イラストを描いてプレゼントしたそうです。「娘が寝る時に『今日も一日楽しかったね』なんて言うんです。これがかわいくて。彼女のこういうところをとっても尊敬しています」と笑顔で話す日景さん。「七夕まつりが2年続けて中止になり、まだ連れていったことがありません。平塚らしいところを、たくさん見せてあげたいですね。これから娘が育っていく中で、人と人が触れ合える、温かく活気のあるまちであってほしいと願っています」。



湘南平を駆け回る娘を、優しくいまなごしで見守る日景さん

● 昭和7年4月1日の平塚市と、その後の合併によって現在の平塚市となった地域の地図

金目村は昭和30年に真田地区が大根村から分離編入され、岡崎村は昭和31年に伊勢原町と平塚市へ分村合併したため、昭和7年の市制施行当時の村域と異なります



平塚市が 始まった頃…

昭和7年4月1日、平塚町が平塚市になりました。市制施行当時の平塚市の人口は約3万6,000人、戸数は約7,400戸。以来、各町村と平塚市が合併し、昭和32年10月1日に現在の平塚市の形となりました。

YouTubeの市博物館公式チャンネルで動画「5分でわかる平塚学入門 平塚市制施行」を公開しています。地図や、市制施行を祝う当時の写真などを交えてわかりやすく解説していますので、ぜひご覧ください。

2次元コードからアクセスできます

